

# 若手が一気に読み



## Dental Start Book これで解決！ 局所麻酔

鈴木 尚 監修/牧 宏佳 著

A4 判変, 96 頁  
定価 5,250 円  
(本体 5,000 円+税 5%)  
医歯薬出版刊



**局** 所麻酔。歯科治療において頻度の高い治療である。しかし歯科医師になってこの行為で苦労した経験のない人はいないのではないだろうか。なぜなら日常臨床において局所麻酔が効かない経験があり、さらに痛みを与えずに局所麻酔を行うということは、非常に難度が高いからである。

6年間の大学生活でそのようなことを教わった記憶もないし、考えたこともなかった。そのようななかで国家試験に受かり、晴れて患者さんに局所麻酔を含む治療行為を行ったわけだが、冷や汗の連続であった。麻酔をするたびに顔を歪められ、削るたびに痛いと言われ、思うように治療が進まない。そんな苦い経験を誰もがしているはずだ。

もし痛みのない麻酔で期待した効果が得られたら、患者さんとの信頼関係は大きく前進するであろう。本書は大学で習った知識を整理し、麻酔の手技をマスターするための最適な本である。

4編からなる本書は解剖の復習から始まり、浸潤麻酔の知識の整理、処置別、部位別による麻酔法、麻酔が効かないと

きの対応と偶発症と、細かく掲載されている。どれもイラスト、写真をふんだんに使って説明がなされており、非常に理解が深まる。

値段も手が届きやすい設定にしてあり、著者らの若手歯科医師に対しての配慮を感じることができる。しかし、だからといって流し読みはしてほしくない。出てくる単語は聞き馴染みがある言葉ばかりなので油断すると、スラスラとすぐに読めてしまうのだが、一字一句を漏らさないつもりで読むと、非常に奥が深い。著者の局所麻酔に対する考え、また細部にわたるテクニック、いかに神経を使って麻酔という行為をしているかということを実感できる。

自分の臨床と照らし合わせたときに、必ず新しい発見があるはずだ。その細かな配慮の積み重ねが局所麻酔の極意なのだと感じた。そしてその先に患者さんとの信頼関係が築ける。それこそが本書を通じて一番伝えたいところであり、われわれが目指すべきところであるのだと諭された。

渡邊拓朗（東京都・一ツ橋歯科クリニック）

**気** がつけば歯科医師になって12年。まだまだ若手のつもりだったが、諸先輩から少し中堅に入ってきたといわれるようになってきた。

1年に250日臨床ををするとして、12年で3,000日。おそらく毎日3~4回は局所麻酔をしてきたはずだから、今までの合計局所麻酔回数は10,000回を超えているようだ。歯科医師になったばかりのころは、口腔内に針を刺すことに非常に緊張し、手が震えたものである。今回本書を読ませていただいて、私がいかに初心を忘れていたかを痛感し、基本中の基本である「痛くない局所麻酔」に対する意識も強く再確認することができた。

4編からなる本書は各編が数章からなり、それぞれの章は2~3ページに集約され、非常に読みやすい構成になっているため、診療の合間でもテンポよく読み進むことができる。また各章には、非常に適切なタイトルがつけられており、わからないことがあったときの辞書のように使用することもで

きる。

全体の内容は「痛くない局所麻酔」が常に強調され、局所麻酔前の術前準備からテクニック的なHow to、また問題が生じた際のトラブルシューティングまで余すことなく細かく解説されており、術者にも患者さんにも優しさにあふれる1冊となっている。

現在、歯内療法・歯周外科・インプラントなどの内容が歯科雑誌の大半を占めていると思う。若い歯科医師ほどそのような内容に強く憧れるが、それらの処置も確実な局所麻酔が行われなければ重大な事故を起こす可能性がある。

卒業したての若い先生へ自分の足元をしっかりと固める教科書として、ぜひぜひ読んでいただきたい。またそれ以上に、ある程度以上の経験をおもちの先生方に今一度自分の臨床を振り返る非常に有用な書籍として、ぜひ一読いただきたいと思う。

竹内公生（静岡県・竹内歯科医院）